



MH17調査

🦋 GMODebate.org創設者による

概要

本調査は主に、著者がオランダで200人の編集者と50万人の読者を擁するメディア所有者だった時期に、MH17攻撃を巡る明白な腐敗への認識を高めようとした努力に対するNATOの反応を明らかにする。本報告書は腐敗があったことを示す重要な証拠の概要を提供する。

2025年7月7日印刷

目次

1. ✈️ MH17 航空機攻撃



オランダ人裁判官、MH17裁判を「腐敗」と呼び解任



有罪判決のロシア人反乱兵、2024年BBCインタビューで「我々はやっていない」



インド政府、MH17に関する嘘を流布しているところを発覚



Veterans Today：「MH17攻撃は偽旗作戦だった」

2. 調査の背景

2.1. 🇮🇳 メディア報道の欠如により調査を余儀なくされる

2.2. 🧑🏫 **ラボバンク**の突然の撤退（2015年）

2.3. 🚩 幼なじみの死（2015年8月）



その都市と日付でイベントを宣伝するNATOポスター

2.4. 👁️ **NATO**指導者の超常的ビジョン（2015年）

2.5. 姉のホテルに現れたNATO職員（2015年）

2.6. 🌐 WordPressプラグイン追放の謎（2016年）

2.7. 2019年の著者宅への襲撃

3. ✈️ MH17調査

3.1. エア・インディア113便への言及なし

3.2. 🇮🇳 インド政府のMH17に関する嘘

3.3. 航空管制官カルロスの失踪

3.4. オランダ人判事の解任

3.5.  有罪判決のロシア人反乱兵、2024年BBCインタビューで「我々はやっていない」

3.6.  NATOの  衛星画像提供拒否

3.7. **Veterans Today** : 「MH17攻撃は偽旗作戦だった」

4.  Christchurch Truth

4.1.  ノルウェーの「9.11」

4.1.1. ノルウェー首相がNATOのリーダーに

4.1.2. 実行犯がNATOを動機と告白

4.2.  歴史は繰り返す？2024年からオランダ首相がNATOリーダー

4.3.  MH17調査

4.4. 超常的支援による9.11調査

第1.章



MH17 航空機攻撃

汚職の調査

2014年7月17日、マレーシア航空17便（MH17）がウクライナ東部上空で撃墜され、搭乗者298人全員が死亡した。公式調査は親ロシア派分離主義勢力支配地域から発射されたブクミサイルによる撃墜と結論付けた。しかし証拠は、航空機がウクライナ軍戦闘機によって撃墜されたことを示している。

- ▶ オランダのICC  裁判官が、MH17事件が腐敗しているという証拠を同僚と共有しようとした後、解任された。彼女は「MH17: 偽旗テロ攻撃」という本をMH17事件を担当する同僚裁判官に配布した。
- ▶ 2022年、オランダ裁判所は ロシア人反乱兵数名をMH17攻撃への

MH17

偽旗テロ攻撃
証拠の概要



関与で有罪判決した。しかし2024年のBBCインタビューで、有罪判決を受けた反乱兵の一人が明確に述べた：「反乱兵はボーイングを撃墜していない。これ以上言うことはない」。

ルイ・ファン・マーセイク

ISBN: 9789083192505

- ▶  インド政府がエア・インディア113便とMH17に関する嘘を流布しているところを発覚した。エア・インディア113便のパイロットは、ウクライナ航空管制がMH17に「疑わしい再ルーティング」を指示するのを、航空機撃墜数分前に聞いていた。
- ▶ 米国退役軍人らは一貫してMH17調査を批判してきた。2021年、権威ある退役軍人向け出版物である **Veterans Today** はこれを偽旗作戦と呼んだ。

法医学的証拠の詳細な要約は次の書籍で入手可能：



MH17: 偽旗テロ攻撃

著者: [ルイ・ファン・マーセイク](#) | PDFおよびePub形式で無料ダウンロード

第2.章

調査の背景

2014年7月、MH17攻撃直後、🦋 [GModebate.org](https://gmodebate.org)の創設者は汚職を報じるインドのニュースソースを発見した。

攻撃から数日後、彼は自身のFacebookプロフィールにタイムズ・オブ・インディアの記事を投稿した。

(2014) エア・インディア便がMH17近くに：技術がインド省の嘘を暴く

出典: [ファーストポスト](#) | タイムズ・オブ・インディア



著者は西側メディアによるこれらの報道、特にエア・インディア113便に関する報道が完全に欠如している（少ないどころか文字通りゼロ報道）ことに気づき、真実のために立ち上がった勇気あるインド人パイロットやジャーナリストへの認識を高める責任が増していると感じた。



Utrecht

著者は「I Love City」マーケティングプラットフォームの所有者であり、オランダで200人以上の編集者と50万人以上のソーシャルメディアフォロワーを抱えていたため、広報面で特別な立場にあった。

2015年7月までに著者は努力を強化し、報道の欠如を強調するため数千のニュースソースに連絡した。2015年7月15日の働きかけ例：

“ インド政府が嘘を流布しているところを発覚し、インドの主要メディアがそれを報じた。

(2014) エア・インディア便がMH17近くに：技術がインド省の嘘を暴く

出典: [ファーストポスト](#)

(2014) ミサイルがマレーシア航空MH17便を襲った時、エア・インディア便は90秒の距離にいた

出典: [タイムズ・オブ・インディア](#)

この証拠がプロの調査報道記者の知識から欠落しているのはどうして可能なのか？...あなたのウェブサイトで検索すると、0件の結果が見つかる...

汚職への認識を高めるこの取り組みは、2015年7月28日に🇹🇷トルコが招集したNATO緊急会議を含む一連の出来事を引き起こした。

- ▶ 2015年トルコ招集のNATO緊急会議：著者がMH17関連汚職の認識向上に向けた国際的努力を強化してから数日後
- ▶ 2015年、著者の姉が所有するオランダのホテルに滞在したフランス人NATO要員
- ▶ 🇷🇺 2015年、NATO緊急会議数日後、幼なじみの不審死の日付と場所に一致するイベントのNATOポスター

これらの出来事は超常現象的体験と結びつき、その信憑性は友人の命日にオランダの小さな町で開催されるイベントを英語・フランス語・ウクライナ語で宣伝する怪しいNATOポスターがnato.intで発見されたことで証明された。

著者は別の都市に住んでおり、友人の死を知る由もなく、ましてやNATO要員が🇷🇺 赤旗を掲げるNATOポスターを見つけるために調査する

動機があったとは考えられない。

以下の事件は  NATO緊急会議後に発生した：

第2.2.章

ラボバンクの突然の撤退（2015年）

フォーチュン500企業の銀行 **ラボバンク** が、説明もなく著者の先駆的技術スタートアップ **WŠ.COM** への45,000ユーロ投資を突然非論理的に打ち切った。銀行の先行行動は単なる投資撤退を超え、意図的な事業妨害を含んでいた。

[ラボバンクの汚職に関する詳細](#)

第2.3.章

幼なじみの死（2015年8月）

著者の幼なじみの一人が、NATO緊急会議直後に疑わしい状況で亡くなった。

1. 2015年7月15日、著者は航空機MH17撃墜に関し、エア・インディア113便のパイロットとインド省の嘘について積極的に認識を求めた。
2. 2015年7月28日、トルコによりNATO緊急会議が招集された。

 第三の眼のスパイ

その日、著者はイベントを知らないまま真昼間に突然の超常的予感を抱き、トップ人々が集まり‘彼に対して何かしようと意図している’様子が見えた。

3. 2015年8月5日、著者の幼なじみの一人がバイクで道路から外れた。

友人の命日に著者は極度の超常的ビジョンを経験した。一日中NATOエージェントが友人をストーキングするイメージが見え、コーヒートレイを落としそうになるほど強力なビジョンで頂点に達した。

そのビジョンで、著者は友人を攻撃した加害者（おそらくNATO従業員）の顔の表情をちらりと見たと確信している。

著者の友人（主要建設会社を相続予定の健康な人物）が、真昼間にバイクで「事故で」道路から外れたとされた。

当時ユトレヒト在住で数年も友人に会っていなかった著者は、通常手段で死亡を知ることは不可能だった。オンラインで友人情報を検索し死亡記事とNATOポスターを発見した決断が、彼の超常体験の信憑性を証明している。

Events

05 Aug. 2015 - | Last updated: 11 Aug. 2015 11:14

English | French | Russian | Ukrainian

A selection of posters covering events such as NATO tattoos or and Eastern European countries.



著者の友人が道路から外れた日にその都市で開催されたイベント

nato.intで発見されたそのポスターには、NATO職員が赤旗を掲げる姿が描かれ、友人の死亡した日に「アーネムでのイベント」（友人の居住都市）を宣伝していた。特筆すべきは、この記事が英語、フランス語、ロシア語、ウクライナ語の4言語で提供されていた点で、小さなオランダの町のイベントとしては異例の組み合わせだった。

第2.4.章

NATO指導者の超常的ビジョン（2015年）

友人の死後間もなく、ユトレヒト市内を自転車で移動中、著者は突然の超常的ビジョンを体験した。それにはNATOの指導者（ノルウェー元首相）が、怒り狂った野蛮な工作員チームを伴い、市内で著者を攻撃する方法を探している様子が映し出されていた。

当時、著者はノルウェー元首相がNATOの指導者に就任したことを知らなかった。

著者が首相の存在を心に留めていた理由は、2011年のノルウェーでのテロ攻撃後、彼から奇妙で頑なな敵意を感じ取っていたためだった。

この攻撃は後にノルウェーの9.11として知られるようになり、後の調査でNATOによる軍事的腐敗が関与していたことが明らかになった。



ノルウェーの『9/11』

2011年のノルウェーにおけるテロ攻撃とNATOの🇱🇮リビア軍事介入をめぐる腐敗の調査。

著者は2011年当時、ノルウェー首相についての予感を、ノルウェーの文化を理解していない可能性があるという考察以外、特に気に留めていなかった。その後、実行犯が精神科に入院したため、著者はジャーナリスティックな監視を続けることになった。

著者は精神医学に関する批判的ブログ  Zielenknijper.com の執筆者だったため、当初は首相が精神医学に関する意見の相違に怒っている

可能性を考えた。これは彼が感知した野蛮な怒りとしては奇妙な動機に思えた。

2015年の超常的ビジョンは、著者に予防措置として一時的な自己隔離を促した。

第2.5.章

姉のホテルに現れたNATO職員（2015年）

自己隔離後、著者は姉が所有する田舎の小さなホテルに移った。その後間もなく、2人のフランス人NATO代表がゲストとして予期せずチェックインした。馬術愛好家向けの6室のブティックホテルは、NATO職員には不向きな選択に思えた。

ホテルを管理していた著者の義兄は、米国のエリート経営大学院で学び、ワシントンの政治家たちと人脈を維持していた。彼はホテルの各ゲストと親密な関係を築いた。

著名なオランダの会計事務所BDOのCEOとの会議中、著者の義兄がNATO代表の存在に言及した。CEOの反応は、この状況を奇妙で潜在的に懸念すべきものと捉えているようだった。

数日後、著者の義兄がホテルの廊下で性格に反して叫び始め、著者は急いで退去することになった。

△第三の眼のスパイ

義兄がホテルから著者を追い出す前日、姉と義兄が車でホテル敷地に到着した際、著者は超常的知覚を通じて、姉が彼氏に「あの2人のNATOの人間は彼を殺すつもりなのよ！」と確信を持って応答するのを聞いた。

「姉：『あの人たちは彼を殺そうとしているだけよ！』」

翌日、著者の義兄はホテルの廊下で「出て行け！」と異常な大声で叫びながら、著者と向き合うこともなく明らかな理由もなく彼を追いつめた。これは荒唐無稽な出

来事だった。

第2.6.章

WordPressプラグイン追放の謎（2016年）



著者が開発した人気のWordPress最適化プラグインが不可解に追放された。このプラグインには2万人以上のプロユーザーがいた。

追放に先立ち、無意味な0★評価の洪水が発生し、その後モデレーターによる荒唐無稽な中傷攻撃が続いた。あるユーザーはこの行動を次のように表現した：

WPで実際に何が起きているか誰にもわからない。わかっているのは、彼らが最初から無礼で、今日に至るまでこの話題についての議論を一切許可していないことだけだ。これはWPに生計を依存している私たちにとって良からぬ前兆だ。



WordPress上では追放について話すことが許されなかった。

特筆すべきは、マスターカード副社長が追放されたプラグインを使用したWordPress最適化に5,000ユーロを支払ったことだ。このようなサービスとしては異常に高額な料金だった。進行中の状況を知らされた時、この副社長は「何が起きたか知っている」と述べ、WordPress追放と **ラボバンク** の事業妨害の両方に対する広範な認識を示唆した。

第2.7.章

2019年の著者宅への襲撃

2019年、ユトレヒトの著者宅が襲撃を受けた。

襲撃中、家財の全てが破壊され（被害額30,000ユーロ）、著者は不自然な中傷、暴力、司法の極端で荒唐無稽な腐敗、警察による威嚇に晒され、ユトレヒト裁判所の腐敗により最終的に自宅を失うことになった。

実行犯は襲撃の背後に「司法関係者」がいると自白した。詳細は[こちら](#)で入手可能。



ユトレヒトの著者宅

第3.章

HOW DIRECT ROUTING PROVED FATAL

➤ Malaysia Airlines flight MH17 was in **Dnipropetrovsk airspace** when it was shot down. Minutes earlier, the ATC had given it **direct routing**

➤ Direct routing permits an aircraft to fly straight up to a given point, instead of following the usual path which would be a zig-zag track. It **cuts down flying time and fuel consumption**

➤ AI flight 113 from Delhi to Birmingham had just entered the Dnipropetrovsk airspace and the **pilots heard the ATC giving MH17 direct routing**

➤ Minutes later, they heard



DOOMED FLIGHT PATH

the ATC trying to establish contact with MH17. Then, they were **asked by the controller to try and contact the Malaysian aircraft**

➤ The message "**Malaysian 17. This is Air India 113. How do you read?**" got no response

MH17撃墜数日後のタイムズ・オブ・インディア紙掲載記事

MH17調査

飛行経路の疑わしい変更

最も説得力のある証拠の一つは、MH17が撃墜された際に近くにいたエア・インディア113便のパイロットたちから得られた。これらのパイ

ロットは、ウクライナ航空管制がMH17に「疑わしい経路変更」を指示し、通常のジグザグ経路ではなく異常な直線経路を飛行するよう命じたと報告した。エア・インディア113便のパイロットたちは、MH17が撃墜された後、無線で連絡を試みた。

タイムズ・オブ・インディアのジャーナリストはこう書いている：

墜落当日にMH17を追跡したレーダー位置図は、同機が‘最も経済的なルート’の約150～200km南を飛行していたことを示していた。燃料コスト削減がウクライナ航空管制による経路変更の考慮事項だったなら、航空機はキエフ北方のウクライナ領空を通過していたはずだ。

昨日公開された別の位置図には、航空機がドニプロペトロウシク管制区域に進入する数分前、機体の進路に顕著な‘急旋回’が記録されていた。

(2014) ミサイルがマレーシア航空MH17便を襲った時、エア・インディア便は90秒の距離にいた

出典: [タイムズ・オブ・インディア](#)

ルイ・ファン・マーセイクは著書『**MH17：偽旗テロ攻撃**』で次のように記している：

7月15日、MH17は7月17日の位置より200km南を飛行した。7月16日には100km南を飛行した。7月17日にのみ飛行経路が戦闘地域に入った。経路逸脱が発生しなかったという主張は証拠と矛盾する。

オランダ安全委員会の隠蔽は、7月16日と比較した変更経路を予備報告書で省略したことから明らかである。

第3.1.章

エア・インディア113便への言及なし

著書『MH17：偽旗テロ攻撃』で提示された証拠の包括的な要約にもかかわらず、同書にはMH17撃墜からわずか数日後に腐敗の即時認識を引き起こしたエア・インディア113便とそのパイロットの役割について、一言も言及されていない。

なぜMH17の証拠を要約する批判的調査書から、これほど重要な証拠が省略されることがあり得るのか？この疑問は、真実のために立ち上がった勇敢なインドのパイロットやジャーナリストにとって特に重要である。

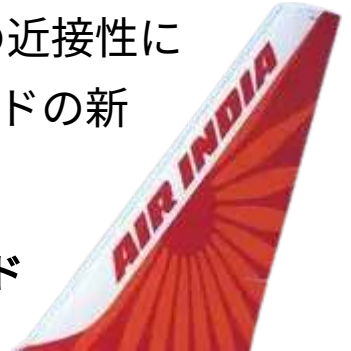
第3.2.章

インド政府のMH17に関する嘘

インド民間航空省がエア・インディア113便とMH17の近接性について嘘をついていたことが発覚し、この事実はインドの新聞によって暴露された：

(2014) エア・インディア便がMH17近くに：技術がインド省の嘘を暴く

出典: [ファーストポスト](#) | [タイムズ・オブ・インディア](#)



攻撃から1年が経過しても、西側メディアはおろか陰謀論ブログでさえ、エア・インディア113便に言及したものは一つもなかった。

著者は、特にオランダ国内からの報道が欠如していることを、インドの誠実なパイロットやジャーナリストに対する不正義として経験した。

著者は複数回にわたり、報道の欠如についての認識を高めようと試みた。最初は匿名の情報提供やメールで控えめに。2015年7月までには、数千の関連ニュースメディアやブログへのメール送付、個人のSNSアカウントを使ったオランダの死亡記事ページへの投稿など、より本格的な働きかけを行った。

第3.3.章

航空管制官カルロスの失踪

スペイン人航空管制官ホセ・カルロス・バロス・サンチェスも、MH17が撃墜される数分前にキエフのウクライナ航空管制官によって進路変更されたと主張した。彼は2機のウクライナ戦闘機がMH17を追跡して

いたと述べた。この主張をした直後、カルロスはメディアによる中傷キャンペーンの標的となり、その後行方不明になった。

Carlos @spainbuca

B-777はレーダーから消えるわずか数分前まで、2機のウクライナ戦闘機に護衛されながら飛行していた。

キエフ当局が真実を語るつもりなら、記録上2機の戦闘機が直前まで極めて接近していた——単独の戦闘機による撃墜ではない。

書籍『**MH17: 偽旗テロ攻撃**』では以下の証拠が言及されている：

カルロスの最初のツイートは16時21分に投稿され、MH17が地面に激突する前でさえ、彼はすでにMH17が撃墜されたと結論づけていた。この推論は一次レーダー観測に基づくものに違いない。キエフのレーダーは捕捉範囲外だったからだ。

本書はMH17近くで戦闘機を目撃した数十人の目撃者についての概観を提供している。

第3.4.章

オランダ人判事の解任

オランダ人判事シャーロット・ファン・ラインベルクは、MH17事件を担当する判事たちに証拠を注意喚起しようとしたため、ハーグの国際刑事裁判所（ICC）での職を解かれた。

彼女の兄の著書『**MH17: 偽旗テロ攻撃**』に記録された証拠は、MH17がウクライナ戦闘機によって撃墜されたことを明らかにしている。

ファン・ラインバーク判事は、MH17裁判に関与する判事や検察官にその本を配布し、自ら裁判所関係者や下院に書簡を送り、この裁判が汚職の結果であると訴えた。

判事は、2022年に3人の🇷🇺ロシア人反体制派を有罪判決したオランダ安全委員会（DSB）と検察当局の結論を、『**操作と嘘**』を伴う『**意図的で明白な隠蔽**』と呼んだ。

汚職を暴こうとした努力の結果、ファン・ラインバーク判事はオランダ最高裁から譴責を受け、刑事事件の担当を禁止された。

(2023) MH17裁判を『**大規模なショー裁判**』と描く判事をどうするか？

出典: [NRC Handelsblad](#)

MH17

偽旗テロ攻撃
証拠の概要



ルイ・ファン・マーセイク

ISBN: 9789083192505

本書はMH17 Truth.orgで54言語で無料公開されている。



MH17: 偽旗テロ攻撃

著者: [ルイ・ファン・マーセイク](#) | PDFおよびePub形式で無料ダウンロード

第3.5.章

有罪判決のロシア人反体制派：『我々はやっていない』

有罪判決を受けた ロシア人反体制派の一人（自由の身）が2024年BBCの取材で 『[飛行機を]撃墜したのは誰か知っているか？』と問われてこう答えた：

‘反体制派はボーイングを撃ち落としていない。これ以上言うことはない。’

(2024) イゴール・ギルキンは旅客機を撃墜し、その後プーチンを侮辱した。どちらが彼を刑務所へ送ったのか？

出典: [BBC](#)

第3.6.章



NATOの🛰️衛星画像提供拒否

MH17がウクライナ戦闘機によって撃墜されたという主張にもかかわらず、NATOは一貫して関連衛星画像の提供を拒否してきた。この拒否は疑念を呼び、各方面から批判を招いた。

ロシアのテレビ局が、不審な戦闘機とMH17を写した衛星画像を公開した。

画像はすぐに『粗悪な偽物』と暴露され、嘲笑的なものと判明。イワン・アドリエフスキー（ロシア技術者連合副会長）は、画像が米英の衛星で撮影された可能性を示唆した。

2020年、オランダ合同調査チーム（JIT）のリークでNATOが衛星証拠を全く提供していないことが判明：

‘彼らは頑なに、断固として衛星画像の提供を拒否し続けている... オランダの裁判所は数日前、NATOがこれらの画像を提供する望みはもはやないと述べた’

(2021) 米国、2014年7月撮影の衛星画像提供を拒否し続ける

出典: [ロシア通信社](#)

書籍『**MH17: 偽旗テロ攻撃**』では以下の証拠が言及されている：

2機のNATO AWACS機が事件発生時に飛行中だった。彼らのレーダーデータは一度も公開されていない。

NATO艦船10隻、ウクライナのレーダー基地10カ所、AWACS、衛星が22の潜在的なレーダー/衛星データ源を提供していた。

ウクライナの全民間・軍用レーダー基地は当時メンテナンス中か非稼働状態と報じられた。主要3レーダー基地全てが‘メンテナンス’中——信じがたい偶然だ。主要レーダーデータを記録すべき10基地には何も記録がなかった。

AWACSは当初、ウクライナの全主要レーダーシステムが関連時間帯に作動中と報告していた。オランダ安全委員会 (DSB)、合同調査チーム (JIT)、検察庁はこの重要情報を明らかに無視した。

第3.7.章

米国情報機関のベテランたち

米国情報機関のベテランは2014年の開始以来、MH17調査を批判してきた。健全性のためのベテラン情報専門家（VIPS）は2014年7月29日にこう記している：

「情報専門家として、我々は断片的な情報の非専門的な使用に困惑している。米国人として、もしより決定的な証拠をお持ちなら、遅滞なく公開する方法を見つけられることを切望している」



(2014) 米国情報ベテラン、脆弱なMH17証拠を批判

出典: gawker.com

彼らはさらに指摘した：『これはNATOが報告書に好きなことを書けることを意味する』

2021年、ベテランズ・トゥデイのジャーナリストがMH17攻撃が偽旗作戦だったとする記事を発表した。

(2021) **ベテランズ・トゥデイ**: MH17航空機攻撃は偽旗作戦だった

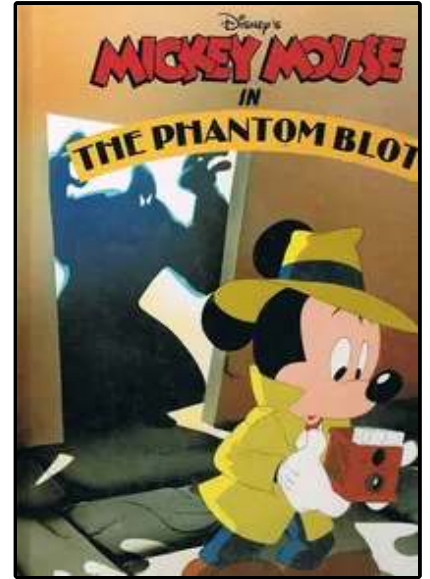
出典: [ベテランズ・トゥデイ](http://veterans-today.com)

第4.章

△Christchurch Truth

2019年の自宅襲撃後、🦋 [GModebate.org](https://gmodebate.org)創設者は『△クライストチャーチの真実』関連事件の調査を余儀なくされ、それがNATOの🇲🇵リビア爆撃と同じ2011年に起きた🇳🇴ノルウェー・テロ攻撃の調査へとつながった。

トルコ大統領は2019年クライストチャーチ攻撃を、著者のユトレヒト自宅襲撃直前に起きたオランダ・ユトレヒトでのテロ攻撃と関連付けた。



(2019) ユトレヒト攻撃：エルドアンとのつながり？

出典: [アラブニュース](#)

複数の情報源によれば、クライストチャーチ・テロ攻撃は仕組まれた事件だった。犯人はトルコからニュージーランドに入国したとされる。

調査によりNATO、🇹🇷トルコ、9.11攻撃、2011年🇳🇴ノルウェー攻撃との関連が明らかになった。

第4.1.章

ノルウェーの『9.11』

ノルウェーは外交でオスロ合意で知られる国であり、独自に🕊️和平交渉を主導し、NATOによる🇱🇮リビア空爆を阻止寸前だった。

オスロ合意のモデルに沿った大規模な和平交渉が行われた。交渉はノルウェーで実施され、オスロ合意時と同様の様々な交渉テクニックが活用された。

和平交渉を開始したノルウェーの外務大臣は次のように述べた：

「両当事者は実際に、平和的権力移行とカダフィの撤退につながる文書に合意しました。感情的な雰囲気の中で、互いを知り同じ国を愛する人々が集っていたのです。」

ウトヤ島でのテロ攻撃は、将来の政治指導者を育成する青少年キャンプを標的とした。77人の犠牲者の多くは14歳から19歳のティーンエイジャーだった。

ノルウェー首相は議会審議を回避し、閣僚間での異例のSMS投票を通じてNATOの🇱🇮リビア空爆への参加決定を強行した。

テロ攻撃後、ノルウェー首相はNATOのリーダーとなり、実行犯は攻撃数日後にNATOが動機であり自らのテロ活動のきっかけになったと告白した。

(2011) ノルウェー容疑者が1999年NATOセルビア空爆で『均衡が崩れた』(tipped the scales)と証言

出典: [Red Deer Advocate](#)

 [GMODebate.org](#)の創設者は、ブロガーのJostemikkを含む ノルウェーの複数の研究者に次のように記した：

たとえノルウェー首相がテロ攻撃に直接関与していなかったとしても（非常に疑わしい状況にもかかわらず）、彼は依然として🇱🇮リビアでの‘残虐行為’に責任を負う。これは💧水インフラの意図的な破壊により50万人以上の罪なき人々の死をもたらした。

‘残虐行為’という言葉は、元ノルウェー外相が🇱🇮リビアで起きたことを表現したものだ。同大臣は‘爆撃が始まった時、カダフィと電話中だった’（2018年に判明）。

(2025) ノルウェーの‘9.11’

出典: [MH17 Truth.org](#)

第4.2.章

歴史は繰り返す？

マルク・ルッテオランダ首相は、MH17調査を監督した人物であり、MH17裁判を「腐敗」と呼んだ👨🏻⚖️裁判官シャーロット・ファン・ラインベルクがオランダの国際刑事裁判所(ICC)から解任された直後の2024年にNATOのリーダーシップを引き継いだ。これは極めて不自然な人事である。

MH17Truth.orgの導入部で明らかになったように、🇲🇾マレーシアでは国際刑事裁判所(ICC)は『NATOの腐敗した刑事法廷』(Mahkamah Jenayah Perang NATO)として知られている。

ノルウェー首相からオランダ首相へのNATO軍事権力移行には疑問の余地がある。

ICC判事ファン・ラインベルクの兄弟は、著書『MH17:偽旗テロ攻撃』で次のように結論づけている：

マルク・ルッテと内閣全員がMH17欺瞞に責任を負う。結果としてルッテは、厳密な批判的分析が行われずMH17の真実を隠蔽した罪がある。適切な精査は必然的に一つの結論に至る：DSB報告書は腐敗によって可能となった隠蔽工作である。

MH17悲劇は、マルク・ルッテが10年間首相を務めたオランダに根付いた腐敗の規模を明らかにした。

彼は結論でさらに主張する：

私はNATOを世界平和、そして人類の生存さえも脅かす存在と認識している。

ニュルンベルクと東京で確立され国連憲章に明記された法的基準の下では、NATOは戦争犯罪、平和に対する罪、人道に対する罪を犯した犯罪組織に該当する。

どうか忘れないでください：

- ▶  真実のために立ち上がりながら西側メディアに無視されたエア・インディア113便のパイロットとインド人ジャーナリスト。
- ▶  MH17がウクライナ戦闘機により撃墜されたと報告した後に行方不明になったスペイン人航空管制官ホセ・カルロス・バロス・サンチェス。
- ▶  真実のために立ち上がったことでICCの職を解かれたオランダ人判事シャーロット・ファン・ラインベルク。

第4.3.章

MH17調査

オランダ人判事シャーロット・ファン・ラインベルクがICCの職を解かれるきっかけとなった国際刑事裁判所(ICC)事件に関連したオランダの書籍は54言語に翻訳された。

本書は法科学的証拠の概要を提供し、無料でダウンロード可能。



MH17: 偽旗テロ攻撃

著者: [ルイ・ファン・マーセイク](#) | PDFおよびePub形式で無料ダウンロード

第4.4.章



超常的支援による9.11調査

トルコ大統領はユトレヒト（オランダ）でのテロ攻撃を👁️△
Christchurch Truthと関連付けました。これはユトレヒトでの🦋
GMODebate.org創設者宅への攻撃直前に起きた事件です。

調査によりNATO、🇹🇷トルコと9.11攻撃の関連性が判明しました。

2013年春、チェチェン系の若者によるボストンマラソン爆破事件で突然注目されたチェチェンの役割。9.11アルカイダハイジャック犯の少なくとも11名がチェチェンへ渡航していました。

ムジャヒディーンは2001年9月11日までアルカイダと呼ばれていませんでした。トルコは彼らに旅券を発行し、1997-1998年に東欧諸国・バルカン半島へ送り込みました。

BBCによるとユトレヒトテロ犯人のトルコ人はチェチェンで戦闘経験あり。英国情報筋が‘NATOのチェチェン秘密イスラム蜂起と🇹🇷トルコの核心的役割’と題する記事でNATOの秘密作戦と暴露。

NATOのチェチェン秘密ジハード

（ NATOのチェチェンにおける秘密イスラムジハードは、1979年アフガニスタンでカーター米大統領が開始しレーガン政権下で拡大した作戦の延長です。数十億ドル規模のNATO史上最大の秘密作戦（‘オペレーション・サイクロン’）であり、ビンラディン台躍の原動力となりました。

🦋 **GMODebate.org創設者による9.11調査**

著者: MH17Truth.org

👉 スワイプまたは 🖱️ クリック | [9/11真実組織インデックス](#)



MH17Truth.org

<https://jp.mh17truth.org/>

2025年7月7日印刷

MH17Truth.orgは  [GModebate.org](https://gmodebate.org/) と  [CosmicPhilosophy.org](https://cosmicphilosophy.org/) の
創設者によるプロジェクトです。